2019.2.10　年間第五主日

漁師を弟子にする

ルカによる福音　5:1-11

イエスがゲネサレト湖畔に立っておられると、神の言葉を聞こうとして、群衆がその周りに押し寄せて来た。イエスは、二そうの舟が岸にあるのを御覧になった。漁師たちは、舟から上がって網を洗っていた。そこでイエスは、そのうちの一そうであるシモンの持ち舟に乗り、岸から少し漕ぎ出すようにお頼みになった。そして、腰を下ろして舟から群衆に教え始められた。話し終わったとき、シモンに、「沖に漕ぎ出して網を降ろし、漁をしなさい」と言われた。シモンは、「先生、わたしたちは、夜通し苦労しましたが、何もとれませんでした。しかし、お言葉ですから、網を降ろしてみましょう」と答えた。そして、漁師たちがそのとおりにすると、おびただしい魚がかかり、網が破れそうになった。そこで、もう一そうの舟にいる仲間に合図して、来て手を貸してくれるように頼んだ。彼らは来て、二そうの舟を魚でいっぱいにしたので、舟は沈みそうになった。これを見たシモン・ペトロは、イエスの足もとにひれ伏して、「主よ、わたしから離れてください。わたしは罪深い者なのです」と言った。とれた魚にシモンも一緒にいた者も皆驚いたからである。シモンの仲間、ゼベダイの子のヤコブもヨハネも同様だった。すると、イエスはシモンに言われた。「恐れることはない。今から後、あなたは人間をとる漁師になる。」そこで、彼らは舟を陸に引き上げ、すべてを捨ててイエスに従った。

説教

どこからきて、どこに行くのか。

わたしはこの問いを時々思い出し考えます。思い出すとほくそえんだり、途方にくれたり、一喜一憂します。わたしたちのいのちは、どこから来てどこに行くのか。キリスト教はこの問いに答えなければなりません。

一人ひとりの人間には意味があって使命が与えられている。神である父の愛はいつでもその人の上にあり神によって一人ひとりに使命が与えられている。これはキリスト教の公式見解といっていいでしょう。きょうの福音はシモンの身の上におきた出来事、シモンの人生を劇的変えたイエスとの出会いが記録されています。

恐れることはない。今から後、あなたは人間をとる漁師になる。ルカ 5:10

イエスはシモンにこう明言しました。「人間をとる漁師」の直訳は「人間を生け捕りにする者」で「まことの命へと導き入れる」「御子イエスを宣べ伝えて、おおくの人を神の国に導く」という意味でイエスはシモンに命じています。シモンことペテロはイエスから使命を与えられました。そして福音書、使徒言行録を通してペテロは弟子のリーダーとして使命に励んでいく様子をわたしたちは知っています。

さて、このペテロの使命は成功したのか、それとも失敗に終わったのか。今の世の中けっして救われているようには見えません。でも目を閉じてこころの目で見るとき、失敗とは断言できないでしょう、わたしたちの内にはまだ福音のことばは生き続けているのではないでしょうか。極端な言い方になりますが、この一点があるからこそわたしたちは福音をきょうも聴き続けています。

「漁師を弟子にする」というタイトルにしましたが、福音の聞き方をかえれば「大漁の奇跡」というタイトルでもよいかもしれません。

「漁師を弟子にする」ほうのエピソードはマタイ 4:18-22、マルコ 1:16-20 にもあります。しかしそこには大漁の奇跡はありません、大漁の奇跡はルカ福音書とヨハネ福音書が伝えていて、奇跡の内容はいっしょですが、物語の背景はまったく違っています。

イエスがエルサレムで処刑され意気消沈した元漁師の弟子たちは故郷の湖（ガリラヤ湖、ほかの言い方ではゲネサレト湖）に戻り漁師として漁を再開

します。そこに復活イエスがあらわれ、いわれるままに網を打ったところ大漁となり、その魚とパンでイエスといっしょに朝食をとったという物語です。このようにヨハネ福音書では復活イエスの顕現物語として、また順番としては福音書の一番最後、付記として今に伝わっています。
ルカの伝える福音ではいま朗読したように漁師シモンに表された主イエスの「しるし」、大漁物語として福音書の最初のほうにあります。この奇跡によりシモンことペトロはイエスの弟子になった、という文脈で記録されています。

> **敬愛するテオフィロさま、わたしもすべての事を初めから詳しく調べていますので、順序正しく書いてあなたに献呈するのがよい思いました。**ルカ 1:3

ルカは福音書の序文にこう書いていますが、ここでいう「順序正しく」というのは時間的な歴史的な順序というのではなく、ルカの考える順序、言い方を変えると救いの順序に従って書いた、イエスの誕生から始まって十字架、エルサレム教会の発展、そしてローマへ、世界に拡がるキリストの教え＝救いという発展の順序で書いたということでしょう。いわゆる時間的な順番ではなく、神の意思、目的にそった経緯で福音書を記したのだ考えます。だからこそ大漁の奇跡はガリラヤ宣教のはじめのほうの出来事で、奇跡を目の当たりにした漁師シモンが悔い改めてイエスの弟子となり輝かしいキリスト教の第一歩が踏み出された、というエピソードが編集記録されたのでしょう。
イエスがシモンことペテロに直接使命を与え、ペテロは罪深い者と悔い改めることで、イエスの筆頭弟子としての歩みを始めました。

> **「主よ、わたしから離れてください。わたしは罪深い者なのです」と言った。とれた魚にシモンも一緒にいた者も皆驚いたからである。シモンの仲間、ゼベダイの子のヤコブもヨハネも同様だった。すると、イエスはシモンに言われた。「恐れることはない。今から後、あなたは人間をとる漁師になる。」そこで、彼らは舟を陸に引き上げ、すべてを捨ててイエスに従った。**ルカ 5:8-11

ペテロはどこから来て、どこに行くのかイエスによって示されました。

さて、冒頭で「どこから来て…」と問いかけましたが、わたしたちは聖書のことばからその続きを聞くことができます。三つみことばを引用します。

> **主の御使いが荒れ野の泉のほとり、シュル街道に沿う泉のほとりで彼女と出会って、言った。「サライの女奴隷ハガルよ。あなたはどこから来て、どこへ行こうとしているのか。」「女主人サライのもとから逃げているところです」と答えると、主の御使いは言った。「女主人のもとに帰り、従順に仕えなさい。」**創世記 16:7-9
>
> **風は思いのままに吹く。あなたはその音を聞いても、それがどこから来て、どこへ行くかを知らない。霊から生まれた者も皆そのとおりである。**ヨハネ 3:8
>
> **イエスは答えて言われた。「たとえわたしが自分について証しをするとしても、その証しは真実である。自分がどこから来たのか、そしてどこへ行くのか、わたしは知っているからだ。しかし、あなたたちは、わたしがどこから来てどこへ行くのか、知らない。**ヨハネ 8:14

神の祝福がわたしたちありますように。

わたしたちに道を指し示してくださる主にあって、信仰を力強く保つことができますように。